

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170101036		
法人名	有限会社 介援隊		
事業所名	グループホーム愛らんど		
所在地	〒840-0004 佐賀県佐賀市蓮池町大字小松843番地2		
自己評価作成日	平成26年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年2月25日	外部評価確定日	平成26年4月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>和気あいあいと最期まで楽しく美しく温かい生活を送れるように、手づくりパックでエステをし、プロテイン・酵素・ヨーグルトサプリ・ヨーグルトを用い、健康な身体づくりに努めている。</p> <p>正看護師をスタッフに配置しグリーンクリニック・セコムと24時間のオンコール体制を取り、利用者様が安心安全に暮らせる体制を整えている。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームが位置する蓮池地区は歴史的にも由緒あり、肥前・鍋島藩の支藩として、また、桜の花の名所地として佐賀市民の憩いの場としての賑わいをみせている。しかし、普段は城下町の佇まいがあり、グループホームも静かな環境の中に溶け込んでいる。グループホームの建っている所は法人代表者の地元であり、開設当初はグループホームの珍しさも手伝って、お隣、ご近所から毎日のように話しかけられ、遊びに来られることも多かった。法人代表者も地域にある福祉施設として、入居されている利用者が「体健康に、出来る限りいつまでも美しく」日常を過ごして頂けることを願って手作りパックのエステやサプリメントと採り入れた健康な体作りを工夫されている。建物内部も決して広くはないけれども、廊下やディールーム等に天窓が設けられていて、廊下壁面には開設当初からの「愛らんど便り」を掲示して入居者や来訪者に明るく、楽しい雰囲気が伝えられるように工夫されている。開設されて丸7年が経っている。現在の工夫を継続しつつ、地域により溶け込んだ活動が要請されており、代表者やスタッフが一丸となって新しい「愛らんど」が検討されている。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月10日の職員会議兼勉強会に理念に基づいた取組みが出来ているか、話し合っている。また、理念は利用者や家族の目につきやすい玄関に掲示している。	理念「地域との関わりを大切にし、和気あいあいと暮らせるグループホーム」を掲げ、ミーティングやスタッフ会議の時に全員で取組みについて話し合っている。又、来訪者にも目にして頂くように玄関出入り口に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりを大切に考え、地区の運動会、公民館での催事には、出来るだけ多くの方々の参加をお願いしている。昨年4月には7周年記念イベントを開催し地域の方にも参加してもらい交流を持った。	回覧板の受け渡しやゴミステーションの利用・清掃、区費の負担等日常的な交流はできている。法人代表者の地元であるし、開設当初から関心を示して頂いている。しかし日が経った現在、もう一度地域との関わりを全員で話し合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に手づくりパック、手づくりローション、手づくり洗剤、肥料をつくり使ってもらっている。脊髄活性化法を体験してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域包括支援センターの職員さんに参加してもらい、サービスの向上に努めている。	開設当初は地域の代表者や民生委員も方も運営推進会議に出席されていたが、現在では家族代表と地域包括支援センターの担当者としてホーム側との話し合いになっている。	地域密着型グループホームとしての運営にとって地域の協力を得る事は必要な事だと思われれます。今後は、開設当初のように地域代表者も運営推進会議へ参加されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の保護課、地域包括支援センター、佐賀中部広域連合等に相談しサービスの向上に努めている。	佐賀市の保護課、福祉担当部署との協力関係は出来ている。又、地域包括支援センターの担当者は運営推進会議にもメンバーとして参加して頂き、日頃から連絡を取り合いサービスの向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	命の危険を感じた場合は、家族等から身体拘束の同意書を頂きますが、それ以外は絶対にしません。	代表者、スタッフの全員が施設内・外の研修で入居者の身体拘束のリスクは理解しており、これまでも身体拘束の実績はなく、玄関施錠も含めて拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に学んだことなど職員会議等で報告し、言葉の虐待についても話し、該当者には改善を要請した。防止に努めている。	2014/4/9	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の家族に成年後見人制度について、佐賀地方裁判所に書類を提出受理され、登記が完了した。ほかの家族にも成年後見人制度について説明した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間の許す限り、ゆっくり読み上げ納得されたか確認してから署名捺印をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者がいつでも外部との連絡が取れるよう、また電話、家族、親戚、友達等に意見、不満、苦情を確認、反映できるよう心がけている。	玄関出入りに意見箱を置いており、自由に書いて頂けるように筆記用具も用意している。家族には運営推進会議への積極的な参加も呼びかけ、意見や提案を受け入れる体制は出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月10日の職員会議兼勉強会で運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。	代表者・管理者はスタッフとのコミュニケーションは日常業務でとれている。又、月に一度のスタッフ会議においても意見や提案が良く出ている。スタッフの提案により居室の出入り口の鍵の取り外し等改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務に関し、希望休みを取入れ、ゆったりと仕事に就き、看護師・家政婦経験者・エステティシャン・異業種から等、年齢、環境の違った個性を活かした意見を取入れ、それぞれの個性を活かされるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加してもらったり、新人職員には施設長や経験の長い職員が付いて、個々のペースを見ながらOJTをすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会加入や佐賀県複数事業所連携によりネットワーク作りや勉強会、相互訪問、研修等の活動をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームに来てもらい、必要としている支援について、本人から聴けるよう、家族、職員を含め話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、職員、環境、雰囲気にも馴染んでもらえるか、家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをしっかり聞きだせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフ全員が一体となって、必要としている支援を見極められるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、入居者が安心して職員と共に支えあえる関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に、本人が元気になったりきれいになっていることを喜ぶ中で信頼関係が築けていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも、気軽に面会に来てもらえる環境づくりに努めている。	入居当初の契約時に、家族の面会時、出来るだけ入居者の知人や友人の方も誘って来て頂くようお願いしている。又、ドライブや外出の時、近くに行ける機会があったら、立ち寄れるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく日常生活が出来る環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご縁があり、ホームとの関わっていても、入院、死亡はつきもので、家族にとっては思い出の場所でもある。いつまでもご縁を大切にしたいと思って接している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人や家族から、希望される暮らしを聞きとっているが、毎日本人の様子を見ながら支援している。	入居される時、利用者や家族に入居者の趣味や若い時の仕事等をお尋ねし、日常生活の中でも思いや意向・希望を細かく聞くように努めている。無理な場合には家族と良く相談しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、本人、家族等から出来るだけ多くの情報を引き出し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の行動、バイタルチェックを重視し、総合的に把握できるよう話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人ひとりスタッフが担当し、本人の気持ちをくんだ介護計画を提案し、ご家族に納得してもらった介護計画を実行している。	居室担当制にしており、入居当初は計画作成担当者が中心になって家族と相談しながら課題とニーズを考慮し、3か月後に担当者によるモニタリングを実施、スタッフ会議に諮りながら全体で協議、作成、家族に説明している。長期目標一年、短期目標六か月の見直しとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の記録に、本人の行動、言葉なども書き入れ、職員の言葉かけも記入することにより、本人の様子がよく理解でき、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の可能性を引き出す一泊旅行を計画実行した。今後いろいろな計画していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の訪問等、ボランティアの受入れも行き、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医と地域の医院との契約により、定期的な医療が受けられる。24時間安心した生活が出来るよう医療の協力体制を取っている。	入居当初には従来のかかりつけ医の受診の場合が多いが、家族の希望でホームの協力医と訪問診療医師に変更される事も多い。法人代表の意向もありターミナルケアに重点を置き、24時間対応の医師と連携を築き適切な受診や看護が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グリーンクリニックと委託契約で週一回の健康管理、正看護師を職員として配置、適宜、最適なケアを受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問医、地域の医院が連携をとり、スムーズに医療を受けられるよう手配してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今まで5人の看取りを行っており、悔いのない最期を迎えてもらっていると思う。	入居時に利用者を含め、家族に「重度化や終末期に向けた指針」の文書を見ながら説明し、理解を得て、時期が来たら改めて訪問診療医や看護師を含めて家族と指針を共有しながら関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すぐに看護師に連絡、Dr.に指示を仰ぎ、その指示に早急、的確に対応している。緊急時には、職員にも流れに沿って連絡等してもらっている。職員会議でも緊急対応について話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練等、災害時における避難誘導の実施、地域の人々による協力をお願いしている。	風水害等災害については、これまで二度ほど裏の川が水であふれ、代表者家族、身近なスタッフ総出で地域の避難所に避難した実績があり、マニュアルも作成している。火災訓練も年二回実施しており、一回は消防署立ち会いで、夜間想定訓練となっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のため、個人情報の取扱いについては、その都度承諾を得ている。一人ひとりの尊厳について理解をするため研修に参加し、言葉かけや対応について心を配っている。	特に、スタッフの入居者への言葉使いに注意している。常に入居者を人生の先達として敬い、対応についても、スタッフ会議等でそれぞれ意見を出し合い話し合っている。入居者の誇りや尊厳を傷つけない配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけを大切にし、尊厳ある生活の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで、自由に暮らしてもらえるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ターミナル期の方でも、手づくりパック、手づくりローション、整容し、最期までキレイでいられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえも手伝ってもらい、和気あいあいと皆と一緒に楽しくしている。普通食、全粥、粗刻み食、刻み食、ミキサー食、トロミ食等、残存能力に合わせお出ししている。	食事介助の必要な入居者が数名おられ、スタッフが入居者と共に食卓を囲む風景が困難ではあるが、介助しながらでも入居者と話ながら和気あいあいとした空気を醸し出せるように配慮している。入居者の元気に合わせて、下膳、食器拭き等手伝って頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスによりプロテイン・酵素・ヨーグルトサプリをおやつや食事に取り入れ健康増進に努めている。水分不足にならないよう声かけ摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の口腔衛生を保つために1人ひとりの状態に合わせた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄に対して支援が必要な方には、その方に合った対応を行なっている。バイタル表に排泄の記録を記入し、排泄のパターンを支援している。	排泄チェック表を記録しながら入居者の排泄パターンを把握して適時声掛け、誘導している。日中でも数名の方がおむつを使用されているが、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄を促すために、腸内細菌を活発にするサプリメントを用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	認知があるため入浴は清潔保持の目的で行っている。	高齢者にとって、湯が浴槽いっぱいに張られた入浴は最高のお御馳走という気持ちをもって、入居者には週三日の入浴を実施している。朝から夕方まで自由な時間に入浴して頂いている。体調により清拭に変更することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は、布団を天日干しにし、毎週、枕カバー、シーツ、布団カバーの交換をし、汚れた時は随時交換している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化の確認を常にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、お手伝いをしてもらうことで役に立っているという喜びを感じられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は点滴、酸素をしている人もなく気軽に外出できる状態にあるので人員の確保が出来た時出かけるようにしている。	日課として散歩の時間は設けていないが、暖かく天気の良い日にはスタッフ共々近所を散歩している。又、月に一度車両を使ったドライブも楽しんでいる。特に、去年初めて実施した体調の良い入居者による外泊体験は入居者にとって大変好評であった。家族とスタッフとの協力で機会があれば再度実施を希望されている。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を持たない指導を受けており、希望する物は、家族の承認を得て買い物に行きます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等からの電話の取次ぎ等、自由に外部との連絡が取れるようにしている。 愛らんど便りを作成し、遠方でなかなか来れない方にも月末に手紙を添えて近況報告を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を全室南側にとり、廊下、リビングに天窗を作り、廊下、トイレ、浴室、脱衣室を広くとり、天井も高く威圧感を無くし、季節感を取り入れるようウッドデッキを南側に作りました。	居室は全室南向きの間取りされ、その南にはウッドデッキが用意され入居者は居室の掃出し窓から自由に出て行ける設計になっている。玄関周囲やウッドデッキには花を見れるようにプランターも用意されている。廊下やディールームに天窗があり全体が明るい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファとコタツを配置し、アットホームな環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	重度化した利用者も1人部屋で寂しくないよう一段高くなっていたリビング横の和室をバリアフリーにし一緒に過ごせるようにしている。	介護度が重く、離床の困難な入居者はスタッフの目が常に行き届く配慮がされている。それぞれの居室はベッドと整理ダンスが置かれていて、その上に仏壇が置かれている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	和室をフローリング、バリアフリーに改装することで転倒を予防、自由に自分の思ったように行動できる環境を作りました。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		2014/4/9	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない